

1 研究主題

小・中学校が連携して取り組む外国語活動・英語教育の充実
～コミュニケーション意欲・能力の育成を目指して～

2 研究の概要

柏崎市刈羽郡学校教育研究会が主体となり、柏崎市教育センター、柏崎市・刈羽村教育委員会とタイアップしながら研究に取り組む。また、外国語教育担当者のための研修会などを通して日本の英語教育の動向等にも目を向け、求められているものと目指す方向を理解し、指導に反映させる。

(1) 指導力向上のための研修を推進する。(師範授業、教師のための英会話教室等)

(2) 中学校区単位で外国語活動、英語教育に関する小・中連携を一層推進する。(授業研究会、外国語教育担当教員研修集会等)

3 研究の実際

(1) 授業研究会

期 日 平成 27 年 7 月 7 日 (火)

会 場 刈羽村立刈羽中学校 (1 年 A 組教室)

授業者 小林 素子 教諭

内 容 小学校を卒業してまだ半年も経たない中学校 1 年生の授業ということもあり、小中学校の教員が多数参加した。

また、本時のねらいは、ペアや班での活動を通して小学校で既習の“What is this?” “It is a ~.” の表現を理解することであることから、Hi, friends で慣れ親しんだ表現の Chants を導入に使うなど、小学校から中学校への連続を意識した無理のない導入であった。

小学校外国語活動では、「音」で「ワンフレーズ表現」のように覚えた表現を小林教諭独自の「スラスラシート」「語順シート」を使って自己表現会話にまで高めていた。

協議会では、「ホーム会議」という手法で訪問者(参観者)が 3 つのグループの協議内容を共有し合いながら、本時の協議題に対する手立ての有効性について話し合った。



(2) 模擬授業

期 日 平成 27 年 11 月 10 日 (火)

会 場 柏崎市立第一中学校

指導者 柏崎市教育委員会 星野和子 指導主事

内 容 実際の授業において、「これは効果的」という事例に学びながら模擬授業を行い、アイデアを出し合った。参加者は電子機器の扱い、接続といったデジタル教科書以前の不安を乗り越え、デジタル教科書のよさを実感することができた。

全員パソコンに向かいながら、デジタル教科書を使って「聞く、話す、読む、書く」の四技能を、どの指導場面で有効に活用できるか、教科書のどの単元でどう教えようかと実際の授業風景を頭の中でシミュレーションしながら研修に励むことができた。



4 成果と課題

本年度は、昨年度課題として挙げられていた「小・中連携した取組」についての研究授業が行われた。刈羽中学校の小林素子教諭の授業は、小学校で学習した内容を中学校の学習のどこで、どう生かすかについて一つの答えを示したと言える。

また、柏崎市教育委員会の星野和子指導主事の模擬授業は、まだデジタル教科書の活用が十分とは言えない当地域にあって、その利便性と可能性を参加者が改めて実感できる時間であった。今回の研修をうけて、今後は各校でデジタル教科書を活用した、より実践的な授業の展開が期待される。